

【(7) 板書】

④「板書の仕方を決めている（チョークの色、文字の量や大きさ等）」

《つまずきの背景》

C 記憶力の弱さ、F 視覚認知の困難さ、H 刺激の選択の困難さ、I 目と手の協応動作の困難さ

《解説》

分かりやすい授業の条件の一つには「分かる板書」があります。「めあてはめあて黒板に書く」「重要な語句は色チョークで囲む」「『書く』マークを貼り、写す部分を示す」などの約束事を、あらかじめ子どもに説明しておくことで、授業のポイントや板書のどの部分に注目すればよいかなどが分かりやすくなります。

学級の中には、板書を写す際、前回の続きを意識せずノートのどこにでも書き込む子どもや、ノートを取るのが苦手な子どもがいる場合があります。授業日や教科書のページ数、問題番号などを板書し、ノートに書き写すようにすると後から読んでも分かりやすくなります。また、ノートを書くスピードが遅い子どもに、「ここだけは書くこと」と示すことは、書くことの困難さを補うことにもなります。

子どもは板書を見ながら思考を巡らせたり、板書をノートに写したりするので、文字の大きさや書く量だけでなく、板書するスピードに留意することも大切です。色チョークを使う際には、多用しすぎるとかえって分かりづらくなることや、赤色のチョークは子どもによっては見えにくい場合があるので留意します。

【工夫点】

- ・授業日、めあてを板書する。(小中高 工夫例 52)
- ・重要な語句は色チョークで囲む。(小中高 工夫例 52)
- ・ノートに写す部分には「書く」マークを貼る。(小 工夫例 52)
- ・記号を用いたり、傍線の種類や色を分けたりすることで、板書の簡素化と分かりやすさを図る。(高)

◆工夫例52 「授業日、めあてを板書する」

「重要な語句は色チョークで囲む」

「ノートに写す部分には『書く』マークを貼る」



《小学校》

文字を板書する際は、白か黄のチョークを使います。色チョークは、囲み枠に使うと注意を引くことができます。蛍光色のチョークなども活用できます。



写す

《小学校》

「ここはノートに書きましょう」と口頭で指示をしても、他のことに気を取られて指示を聞き逃している子どもがいる場合があります。書き写す部分を色チョークで囲み、このようなカードを目印に貼っておくと、指示が伝わりやすくなります。